

No.7 多発しているトラック - 墜落・転落の死亡災害事例（2022年）

2022年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
12	8 ～ 10	河川の護岸工事現場において、4 tトラックにフレコンバック（内容物：土、約700 kg×5袋）を積載し、川につながる斜面を後退して下っていたところ、右後輪が路肩から脱輪し、車両が転覆した状態で川に転落したものの。	030107	221	1	1 ～ 9
11	14 ～ 16	ダンプトラックに積載した土砂を荷卸しするため投入場所に移動させていたところ斜面を約26 m転落したものの。	020201	221	1	1 ～ 9
10	14 ～ 16	被災者は、配送先の倉庫内で荷下ろし作業後、トラックの運転を開始したが、すぐに道路を外れて畑の中を走行するなど異常行動をとった。トラックは畑の窪みにはまって停車したが、被災者の意識はなく、アクセルを踏み続けた状態であった（被災者は、搬送先の病院で翌日死亡）。	040301	221	1	30 ～ 49
10	10 ～ 12	トラック運転手である被災者は、荷主構内で合板の積み込みを行っていたが、予定時刻を超えても車両が出発していなかったため、周囲の作業員が確認したところ、トラックのキャビン内で倒れている被災者が発見されたもの。被災者は救急搬送され治療を行っていたが、頭部外傷等により死亡した。	040301	221	1	10 ～ 29
10	8 ～	高原とロープウェイの駅を結ぶ管理用道路において、軽トラックを運転し、駅にごみを下ろし高原に戻るため上り坂を走行中、道路右側の崖に転落し、道路から約80 m下の立ち木に激突したものの。道路はア	040101	221	1	10 ～

	10	スファルト舗装されており幅員は約3.2m。ガードレールはなし。道路勾配の角度は約5度。救助されたが意識はなく、全身骨折及び血気胸により死亡した。				29
10	8 ～ 10	被災者は最大積載量4トンの貨物自動車の運転席上部に設置してあるルーフキャリアの上に乗し、荷台を向きながら、荷台上の荷物（藁）にかけていたシートのゴムを両手で持って当該シートを運転席側に引っ張る作業をしていたところ、シートとゴムを緊結している部分がちぎれ、引っ張っていた反動で被災者は高さ約2.3mから地面まで墜落し後頭部を打撲した。保護帽未着用。	011709	221	1	1 ～ 9
9	6 ～ 8	配送途中の公園駐車場において、トラックの運転席に乗り込む際にバランスを崩して転倒し、頭部を打撲したものと推定される。	040302	221	1	10 ～ 29
8	6 ～ 8	荷主の敷地内において、荷積みした木材を輸送するため、被災者が自社の所有する3トントラックの荷台上で積荷の固縛を行っていたところ、高さ0.9メートルの荷台上からコンクリート地面上に墜落した。	040301	221	1	10 ～ 29
7	8 ～ 10	事業場Aの駐車場において、同社所属労働者は、フォークリフトを用いて敷地南側よりトラック（積載荷重4t）に竹の束を積み込んでいたとき、事業場B所属労働者（被災者）がトラックのあおりに立ち積込場所の指示をし、竹の束を荷台に降ろしたところ、被災者側に竹の束が崩れ、被災者は荷台（高さ約1.35m）から転落、後頭部を敷地のコンクリート塀に強打したと推測される。	080109	221	1	10 ～ 29
7	22 ～ 24	自社駐車場内において10tトラックのキャビンの屋根部分付近（高さ2.6m）とフォークリフトのヘッドガード部分（高さ2m）に足をかけて、トラック荷台のウイング根本付近の部分補修を行おうとしていたところ、誤って、地面に落下、頭部を打ち意識不明となり、通行人が倒れている被災者を発見し119番通報した。被災者は翌日に死亡が確認された。	040301	221	1	10 ～ 29

7	14 ～ 16	橋梁補修工事現場事務所敷地内の産業廃棄物保管場所で、産業廃棄物を積載型トラッククレーンを用いて貨物自動車に積み込み中、貨物自動車の荷台でクレーンを操作していた被災者がリモコン操作を誤り、クレーンで吊り上げた産業廃棄物に煽られ、荷台の上から転落し、背中を強打したもの	150102	221	1	10 ～ 29
6	8 ～ 10	被災者は同僚と建設機械部品工場へ6.7t積みトラックで毎日訪れ、金属切削加工屑（切粉）積込（積込後は製鉄会社へ運び売却）をしていた。同僚がフォークリフトで廃材置場から切粉箱を運んで反転させ荷台へ投入し、被災者は荷台上で、切粉を道具（ピッチフォー）で均すことを繰り返していた。被災者が見えず同僚が探すと、荷台右後方の地面に耳等出血・意識不明で倒れていた。病院搬送後に左側頭部骨折・脳挫傷で死亡。	080109	221	1	1 ～ 9
6	8 ～ 10	被災者は、宅地造成工事現場へダンプトラックで土砂を運搬し、土砂を下すため荷台を傾けたところ、荷台を電話線に引っ掛けてしまい、高さ2.8メートルのダンプトラックのキャブ上に昇り電話線を外す作業をしていたところ、キャブ上から地面に墜落した。	080209	221	1	1 ～ 9
5	10 ～ 12	荷主先において、最大積載量13.5トンのトラック（ウイング車）に積まれた木材のベルト掛け作業をしていたところ、地面に墜落したもの。被災者は墜落制止用器具及び保護帽を着用していなかった。災害から数日後に死亡が確認された。	040301	221	1	30 ～ 49
4	16 ～ 18	整備工場へエンジンの点検のため試運転後トラックを持っていき、車を降りて会話している際に自然に車が坂道を逸走したため、止めようと車を追いかけてドアを開け乗り込み止めようとしたが、間に合わず、トラックと一緒に地面に転落し、衝撃により地面に投げ出された。エンジンは止まっており、サイドブレーキはかけていた。車止めも車内にあった。	030199	221	1	1 ～ 9
		災害発生場所は大型商業施設であり、被災者は同施設内に出店している小売業者に搬入する冷凍スライサー（重量約350kg）を、業者				

4	12 ～ 14	用資材搬入口にて、同僚労働者と2名でハンドリフトを用いて荷降ろし作業を行っていたが、当該機械をトラックの荷台上からパワーゲートに移動させていた際、誤ってパワーゲート上から後方に転落、被災者は頭部をコンクリート床面に強打し、自ら引いていた当該機械の下敷きとなり被災したものの。	080109	221	1	1 ～ 9
4	14 ～ 16	工場内の入出庫ヤードにて、最大積載量14.4トンのトラックの荷台に積んだデッキプレート等の荷下ろし作業中、高さ1.3メートルの荷台から墜落して頸椎を損傷し、病院で治療を受けていたが、後日多臓器不全により死亡したものの。	011209	221	1	10 ～ 29
3	8 ～ 10	被災者及び事業場Aの作業員がトレーラーの荷台に積載していた鉄筋の束を天井クレーンを用いて荷下し作業していたところ、被災者が荷台から墜落したものの。地上から荷台にまでの高さは1.58m、墜落箇所には鉄筋の束が置かれていた。被災状況を現認した者はいない。被災者はクレーンのワイヤーに束を引っ掛ける箇所を確保するためバールを用いており、荷台にはバールが置かれていた。	040301	221	1	50 ～ 99
3	12 ～ 14	作業現場に向かうため、事業場敷地内にて工具等を軽トラックの荷台に載せていた際、軽トラックが後方に急発進して、車止めを超えて2.2mほど川に墜落し、運転席にいた被災者は途中で投げ出されて死亡した。	060101	221	1	1 ～ 9
2	0 ～ 2	被災者は、トラックの荷台上でジョルダーと呼ばれる器具を使用して、トラック後方の荷台端までパレットを引っ張って移動させていた最中に、被災者が手に持っていた起こし棒がジョルダーから抜けてしまい、その勢いで高さ約1.4メートルの荷台上から地面に墜落し頭部を負傷したものの。被災者はくも膜下出血により意識不明の状態であったが、後日死亡した。	040301	221	1	1 ～ 9
2	10 ～	下水管引き込み工事現場において、ダンプトラックの運転手が、ダンプトラックの運転席の扉を開けた状態で後進させていたところ、扉が道路脇のポールにあたり、はずみで運転席から墜落した。療養中で	030110	221	1	1 ～

	12	あったが翌月死亡した。					9
2	20 ～ 22	当該事業場の荷捌き場において、被災者は一人でトラックの荷台に積まれている生簀内の鰯を荷捌き場の生簀に移し替える作業をしていたと推測される。夜になってから、漁師が荷捌き場近くを訪れたところ、トラックの後方の地面に被災者が仰向けに倒れているところを発見され、後頭部骨折により死亡したもの。	170209	221	1		1 ～ 9
1	10 ～ 12	被災者は同僚1名と共に、大型トラック（15t）に積載されたコンクリートブロック（1個約450kg×16個）を、横づけしたもう一方の積載型トラッククレーン（7t）へ積替える作業を行っていたところ、道路沿いの崖下へ約30m転落し死亡したもの。搬送場所が変更され積雪もあった為、積荷を小さい車両へ移し変えていた。	040302	221	1		1 ～ 9
1	14 ～ 16	トラックの荷台から機器を降ろす作業において、テールゲートリフターに機器を載せて位置調整をしていたところ、被災者が機器ごとテールゲートリフターから墜落し、被災者は機器の下敷きになり、死亡した。	030302	221	1		10 ～ 29
1	14 ～ 16	公道上において、労働者が、トラック（最大積載量14.3トン）に積んだ荷（建築資材）の固縛作業を行っていたところ、高さ176センチメートル、幅3センチメートルのトラック荷台のあおり上から地面に墜落した。被災者は被災から約4か月後に閉塞性黄疸により死亡した。	040301	221	1		10 ～ 29
1	8 ～ 10	被災者は大型トラック（13トンウイング車）を運転し、荷を輸送した後、工場へ向うべく高速道路を走行していたが、途中、サービスエリア駐車場に車を止め、高さ3.7メートルのトラック荷台屋根の上で、雪を取り除く作業を行い、トラック後部から降りようとして転落した。	040301	221	1		50 ～ 99

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_03.html